

# 電波新聞

## 横河レンタ・リースがクラウドサービス提供

# IT部門省人化でDX支援

## 「計測器のサービス化」も視野

パソコン(PC)やIT機器、計測器レンタル事業の横河レンタ・リースは、循環型社会に向けた動きが進む中、「所有から利用へ」と移行する潮流に合わせた新しいクラウドサービスの提供を開始する。IT部門の業務を省人化して、企業がデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現するため、より効率的に人的資源を生かす取り組みを支援する。

13日からサービスを「ブスクリプションサービス」開始する「Cotoka」だ。

「Cotoka」の名称は、「モノからコトへ」の変化を表現する「コト化」から。コロナ禍で加速したリモートワークの普及を背景に、自己所有よりも使いたい時に必要なだけハードウェアを利用するニーズに対応したサービスが「Cotoka」と説明



「所有から利用へ」を促すコトカは「循環型社会の実現に貢献できる」と話す澤社長

目指すのは、情報システム部などIT部門の作業負担軽減だ。大企業では数千、数万台のPCを各社員に向けて選定。配置や更新の実作業に加え、計画を立案し予算を確保するといった業務量も無視できない。

社員の在宅勤務を支える仕事も重要。IT管理者は自身がテレワーク中でも、物理的作業のために出社せざるを得ない場面も少なくない。大量の端末をセツトアップし、問い合わせに対応するには相応の労力を要するため、DXなど高次の目標達成に人的リソースを投入する妨げとなっ

Cotokaのサービスイメージ



(出所:横河レンタ・リース)

ている面がある。コトカの活用で、人手不足が慢性的な悩みのIT部門をPC運用にもコトカの狙いだ。

「インターネットに繋がらない」「パスワードポイントの使い方で教えてほしい機能がある」といった問い合わせや、故障時の交換にも同社のヘルプデスクが対応し、IT担当者の手を煩わせることがない。

初年度は20社の契約を想定。5年以内に、現在90万台を超える実績のレンタルPCのうち、2割をコトカに置き換えることが目標だ。

管理から解放し、貴重なIT人材の有効活用を企業に促す。一方、IT部門の業務が渋滞するとエンドユーザーの社員にとっても損失だ。必要な時に必要なタイミングでサポートが受けられるとは言い難い場合も多い。

「インターネットに繋がらない」「パスワードポイントの使い方で教えてほしい機能がある」といった問い合わせや、故障時の交換にも同社のヘルプデスクが対応し、IT担当者の手を煩わせることがない。

「インターネットに繋がらない」「パスワードポイントの使い方で教えてほしい機能がある」といった問い合わせや、故障時の交換にも同社のヘルプデスクが対応し、IT担当者の手を煩わせることがない。

社員はまず、IT部門を介さずPCを手配する。例えば、「月額利用料3,000円、B5ノートサイズで期間3年」といったユーザーごとに割り当てられた契約内であれば、どのメーカーのPCを選ぶかは社員次第というプランを用意した。澤社長は「好みのPCを選んでもらえるようにするこ

大企業を主な対象にする。短期間で最新機に切り替えるとしても、IT部門に更新の手間は生じないため、社員は常にアップデートされたPCを使えるメリットを享受することができる。